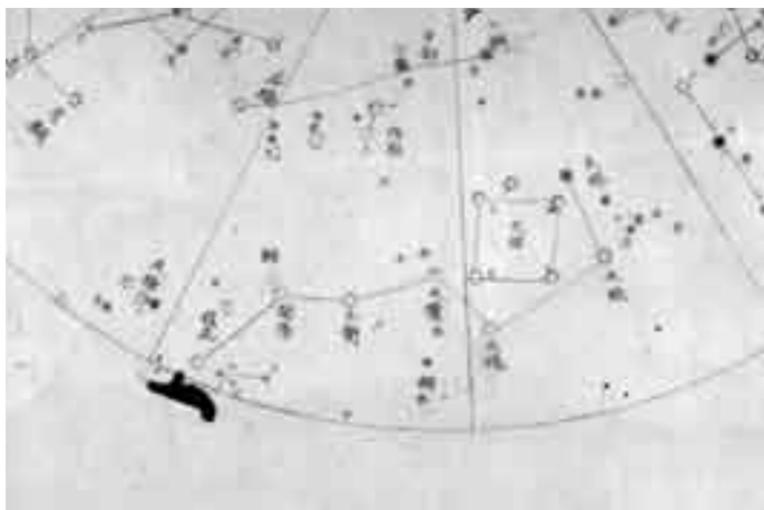


「陸から空へ。星図を作成」
ただのり
忠敬の孫、伊能忠誨

香取遺産

Vol.24



忠誨は、忠敬の長男景敬の長男で、文化3年（1806）に生まれ、

文政10年（1827）にわずか21歳で亡くなりました。父が祖父より先に亡くなっていたので、文政4年（1821）に忠敬の後継者になり、祖父の功績により幕府から給与と江戸に屋敷を与えられました。

こうした経歴から、従来、忠誨はあまり評価されませんでした。近年の研究により、忠誨も忠敬に負けず多くの業績を残していることが明らかになってきています。

忠誨は江戸で天体観測などを行っていました。

が、くじで父景敬を継いで佐原に住むことを決めていたので、伯母（忠敬の長女）の死後、佐原に移り住み、佐原の家（現伊能忠敬旧宅）で天体観測や家の敷地の実測を行っています。

ここに紹介した星図は、天文方の高橋景保（忠敬の先生である至時の子）が進めていた日本地図（伊能図）作成、世界地図（新訂万国全図）作成とともに行っていたプロジェクトにかかわるもので、忠誨が作成したものです。

日本の星図は、従来、中国経由のものを使用していました。が、当時は

ヨーロッパの学術が流入し、西洋流の星図を作成しようとしていました。

中国流の星図には、星の明るさの区分はありませんが、西洋のものは一等星、二等星など星の明るさを表示してました。星座は中国流のものですが、星の等級は星の印の大きさで区別されています。

忠誨関係資料は、その他に、垂揺球儀という振り子時計や暦学書などがあります。

※香取市指定文化財の伊能忠敬関係資料の中に伊能忠誨関係資料が含まれています。